

都市再生整備計画

にしてつかすがばるえきしゅうへん

西鉄春日原駅周辺地区(第1回変更)

ふくおか かすが
福岡県 春日市

令和7年11月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

都道府県名	福岡県	市町村名	かすが春日市	地区名	にしてつかすがばるえんしゅうへん 西鉄春日原駅周辺地区	面積	38.4	ha
計画期間	令和	6	年度	～	令和	8	年度	
交付期間	令和	6	年度	～	令和	8	年度	

目標

大目標：市の中心拠点にふさわしい都市基盤施設の充実と魅力的な歩行者空間の形成を図り、歩きとなるまちなかを創出する

目標1:駅周辺の歩行者空間を整備し、快適で安全な歩行者ネットワークを形成する

目標2:駅周辺の道路空間をにぎわいの創出に活用できるよう改良を行い、市の中心拠点として相応しいエリアとしての価値を向上をさせる

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・西鉄天神大牟田線の急行停車である西鉄春日原駅周辺は、第2次春日市都市計画マスタープランにおいて本市の「中心拠点」として位置付けられており、500mの距離間で西鉄春日原駅とJR春日駅が位置しているなど、利便性の高いエリアとなっている。

・福岡市域の天神や博多地区へのアクセスが良く、福岡都市圏の住宅都市として発展してきた。

・西鉄春日原駅を玄関口として、概ね500m四方のエリアでJR春日駅や春日市役所、県営春日公園等にアクセスでき、駅を中心に多様な商業施設等が立地している他、駅東口側には、大野城市域内ではあるものの大規模商業施設も立地しており、市の中心拠点としての役割を担っている。

・コンパクトな都市構造で災害リスクも比較的低く地形的・地理的に居住に適した住宅都市となっており、人口密度は九州・沖縄地区で最も高くなっている。

・今後、緩やかな人口減少と高齢化の進展が見込まれる中で本市の地域活力を長期的に維持・向上させるため、令和5年度に立地適正化計画を策定(令和6年3月策定)し、持続可能な都市構造への再編を目指している。

・西鉄天神大牟田線の連続立体交差事業(H15～R6)を機とし、街路事業として駅へのアクセス道路、駅前広場等を整備している。

課題

・西鉄春日原駅周辺は古くから商業地として発展してきた経緯があり、市内の各地と比較して早期に住宅や店舗が建築され街区を形成している。そのため、道路幅員は狭く、ゆとりある歩行者空間の確保が課題となっている。

・駅の乗降人員数は急行停車駅であることから20,000人前後で推移しており、市内の鉄道駅では最も多くの市民が利用しているが、駅前広場が整備されておらず、バス停(路線バス、コミュニティバス)と鉄道駅を繋ぐ交通結節点としての機能の充実とゆとりある歩行者導線の確保が求めている。

・市の中心拠点としてふさわしい歩きとなるような魅力的な歩行者空間を形成し、「駅＝経由地」から「駅(周辺地区)＝目的地」への変貌が期待されていることから、街路事業による駅前広場や駅へのアクセス道路の整備だけではなく、当該道路に接続する周辺道路や道路付帯施設の整備により、多様な歩行者が快適で安心安全に移動できる歩行者空間の整備が課題となっている。

・駅周辺においては2つの商店会が存在し多様な商業施設が立地しているものの、現況の歩道は狭くゆとりある道路空間が形成されておらず、にぎわいの創出が図りにくい状況となっている。

将来ビジョン(中長期)

①福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(令和3年4月30日告示)

西鉄春日原駅周辺の商業地域は広域拠点に位置づけられている。

②第6次総合計画前期基本計画(令和3年2月策定)

当該地区での賑わいのある空間を形成する基盤づくりに向けて整備を推進することとしている。

③第2次春日市都市計画マスタープラン(令和3年9月策定)

西鉄春日原駅周辺を中心拠点として位置付け、連続立体交差事業や駅前広場、駅へのアクセス道路の整備に合わせて、市民や民間事業者、商店会などが公共空間(駅前広場や既存道路等)を活用し、にぎわいのある空間を形成するエリアとして位置付けられている。また、商店街内の散策機能強化による魅力向上を図り、リノベーションによる景観整備や公共空間の有効活用等によりにぎわいを演出することで、歩きとなるウォーカブルなまちなか空間の整備を促進することとしている。

一 体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画

滞在快適性等向上区域の考え方

西鉄春日原駅を玄関口として、JR春日駅や春日市役所等の公共公益施設を含む概ね500m四方のエリアを滞在快適性等向上区域として設定し、歩道の新設、バリアフリーへの対応(段差解消、緩やかな勾配への変更)などにより、連続性・回遊性の高い歩行者空間を確保する。

また、駅前広場においては、雨天時や夜間においても歩行者が快適かつ安全に滞在できる空間を創出する。

滞在快適性等向上区域での取組

区域内の道路のうち、歩行者交通量が多く歩道が未整備の区間については新たに歩道を整備する。また、既に歩道が整備されているものの縦断方向の起伏が激しい構造(マウンドアップ構造)となっている箇所については、快適に歩ける空間を創出できるようバリアフリーに対応した構造(セミフラット構造)に改良を行う。

駅前広場においては、バス停やタクシー乗降場と鉄道駅間に歩行者用のシェルターを設置し、雨天時においても快適に滞在できるよう交通結節点としての機能強化を図る。また、駅周辺の道路に歩行者用の照明を配置し、夜間においても安全に通行できる歩行者空間を整備することで、訪問者数の増加につなげる。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅周辺地区における地元団体のイベント開催数	回	駅前広場及び駅周辺において開催されるイベント等の回数	駅前広場に接続する道路改良(カラー化、段差解消)を行うことで、一段のイベントスペースを確保する。	2回	R4年度	4回	R8年度
駅周辺の歩行者空間の満足度	%	市民意識調査において、西鉄春日原駅周辺の歩道の環境整備に満足と答えた割合	雨天時や夜間においても、安全に歩くことができる歩行者空間を整備することによって、快適性や回遊性の向上を目指す。	49.90%	R4年度	52.00%	R8年度
駅周辺の商店街を通行する歩行者数	人	休日における駅の東西に位置する2つの商店街のメインストリートにおける歩行者の数	商店街のメインストリートの歩行者空間を整備することで、安全な歩行空間を確保し、商店街への訪問者数の増加を増やす。	3,270人(休日)	R4年度	3,600人(休日)	R8年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1 駅周辺地区における居心地が良く歩きたくなる安全・快適な歩行者ネットワークづくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・西鉄春日原駅を玄関口とした概ね500m四方のエリアにおいて、段差や勾配が急な歩道、狭隘な歩道などの課題を解消することで、駅利用者や中心拠点への訪問者、その他当該エリアに立地する施設の利用者等が目的地まで安全で快適に通行できるように、歩道を改良する。・高架橋沿いの道路において片側のみにしか歩道が整備されていない区間が存在するため、新たに歩道を整備し、駅を中心とした歩行者ネットワークの形成を図る。・歩行者空間のカラー化を行い、車両運転者に歩行者空間の位置を認識させることで、交通安全性を向上させる。	<p>【基幹事業】市道2級第1号路線道路改良工事(道路)</p> <p>【基幹事業】市道136号路線道路改良工事(道路)</p> <p>【基幹事業】市道1332号路線道路改良工事(道路)</p> <p>【基幹事業】春日原駅西口駅前広場歩行者用シェルター設置工事(滞在環境整備事業)</p> <p>【基幹事業】春日原駅東口駅前広場歩行者用シェルター設置工事(滞在環境整備事業)</p>
<p>【整備方針2 交通結節点としての機能強化を目的とした施設を整備し、雨天時や夜間においても滞在できる利便性の高い滞在空間を創出する。】</p> <ul style="list-style-type: none">・連続立体交差事業及び本市が施工する駅前広場整備事業に合わせ、バス停(路線バス、コミュニティバス)やタクシー乗降場と外コンコースを結ぶ歩行者動線上にシェルターを設置することで、公共交通の乗り換え時や待機時間における快適性を向上させる。・駅前広場や駅へのアクセス道路、駅周辺の生活道路に歩行者用の照明を設置し、夜間においても歩行者が安全に通行できる空間を確保する。特にアクセス道路の整備によって幅の広い歩行者空間が確保できる場所については、スポット的な滞在空間としての利用も想定されるため、重点的に歩行者用照明を配置する。・自転車駐車場を整備することで、放置自転車の解消による歩行空間の確保や景観の向上が図られ、安心して歩ける環境が形成される。また、自転車と徒歩を組み合わせた移動を促すことで、駅周辺の商業施設や公共空間への回遊性が高まり、にぎわいと安心が共存する歩きたくなるまちなかづくりを形成する。高架下空間に自転車駐車場を整備することで、駅への自転車アクセスが向上し、公共交通とのスムーズな乗り継ぎが可能となるほか、雨天時でも濡れずに利用できる快適な駐輪環境が確保される。また、高架下という未活用空間を有効に活用することにより、防犯性やまちの景観向上にも寄与し、周辺の違法駐輪の抑制や駅前広場の安全性・快適性の確保にもつながる。・居心地の良い魅力的な空間を創出し、「駅＝経由地」から「駅を中心としたエリア＝目的地」へとなるよう、エリア価値を高める。	<p>【基幹事業】春日原駅西口駅前広場歩行者用シェルター設置工事(滞在環境整備事業)※再掲</p> <p>【基幹事業】春日原駅東口駅前広場歩行者用シェルター設置工事(滞在環境整備事業)※再掲</p> <p>【基幹事業】春日原駅駅前広場高質空間整備工事(高質空間形成施設)</p> <p>【基幹事業】春日原駅周辺道路高質空間整備工事(高質空間形成施設)</p> <p>【基幹事業】春日原駅周辺高架下自転車駐車場整備工事(地域生活基盤施設)</p>
<p>【整備方針3 既存の道路空間を活用し、駅を中心としたエリアにおいて交流と賑わいを生み出す基盤づくりを行う。】</p> <ul style="list-style-type: none">・駅周辺の道路空間を、鉄道利用者が目的地に行くために通行する空間から、駅周辺に立地する店舗等が活用することで人が滞留する空間となるように改良し、賑わいのエリアとしての発展を図る。・駅前の商店街通りに位置しており、安心して歩行や買い物ができる歩行空間の確保や、イベント時にも利用しやすい道路整備を目的として、排水性能を確保しつつ歩行者の安全性や景観にも配慮したスリット側溝や、駅前広場と同様の美装化(カラー化)を行い、連続性のある魅力的な歩行者ネットワークの形成を図る。・道路空間を地元商店街や自治会、市民団体など多様な主体がイベント会場や店舗の飲食スペース等として活用できるよう、段差や勾配を解消するとともに、電源の設置や水道の引込を行う。	<p>【基幹事業】市道112号路線道路改良工事(道路)</p> <p>【基幹事業】市道117号路線道路改良工事(道路)</p>
その他	
<p>【地元自治会、商店会や商工会と連携したまちづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・連続立体交差事業を契機として、地元自治会(2地区)及び商店会(2商店会)、商工会とで構成される「西鉄春日原駅周辺まちづくり会議」を平成30年度に発足し、定期的に会議を開催している。・会議の議題は多岐に渡り、連続立体交差事業や市が実施している街路事業の進捗状況報告のほか、ハード整備完了後のにぎわい創出を見据えた情報共有や意見交換を行っている。・駅前広場を含む街路事業の整備効果をエリア全体に波及させることを念頭に、本計画に記載する整備路線の選定、工事内容等については複数回議題として取り扱っている。・本計画で実施する道路改良により、沿道の事業者等が道路空間を活用したイベント等によりにぎわいを創出しやすい環境を整備する。 <p>【官民が連携するまちづくりの推進】</p> <p>本計画の核となる施設は西鉄春日原駅(管理者(鉄道事業者):西日本鉄道株式会社)であること、西鉄春日原駅の東側は大野城市域と隣接していることから、本計画の実施にあたっては、西日本鉄道株式会社と大野城市との連携は必要不可欠となる。</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年5月19日に、上記の2者と春日市で「連続立体交差事業を機とした官民連携まちづくり協定」を締結しており、今後のまちづくりにおいて相互に連携を図ることを確認している。・協定における取組を実現することを目的に、本計画における滞在快適性等向上区域を設定しており、大野城市が作成した都市再生整備計画(大野城市中心市街地地区)(令和3年11月第1回変更)における滞在快適性等向上区域と合わせて整備を行うことで、西鉄春日原駅周辺だけでなく、複数の駅に跨がる鉄道路線を軸としたまちづくりを推進する。	

様式(1)-④-4

(金額の単位は百万円)

...A

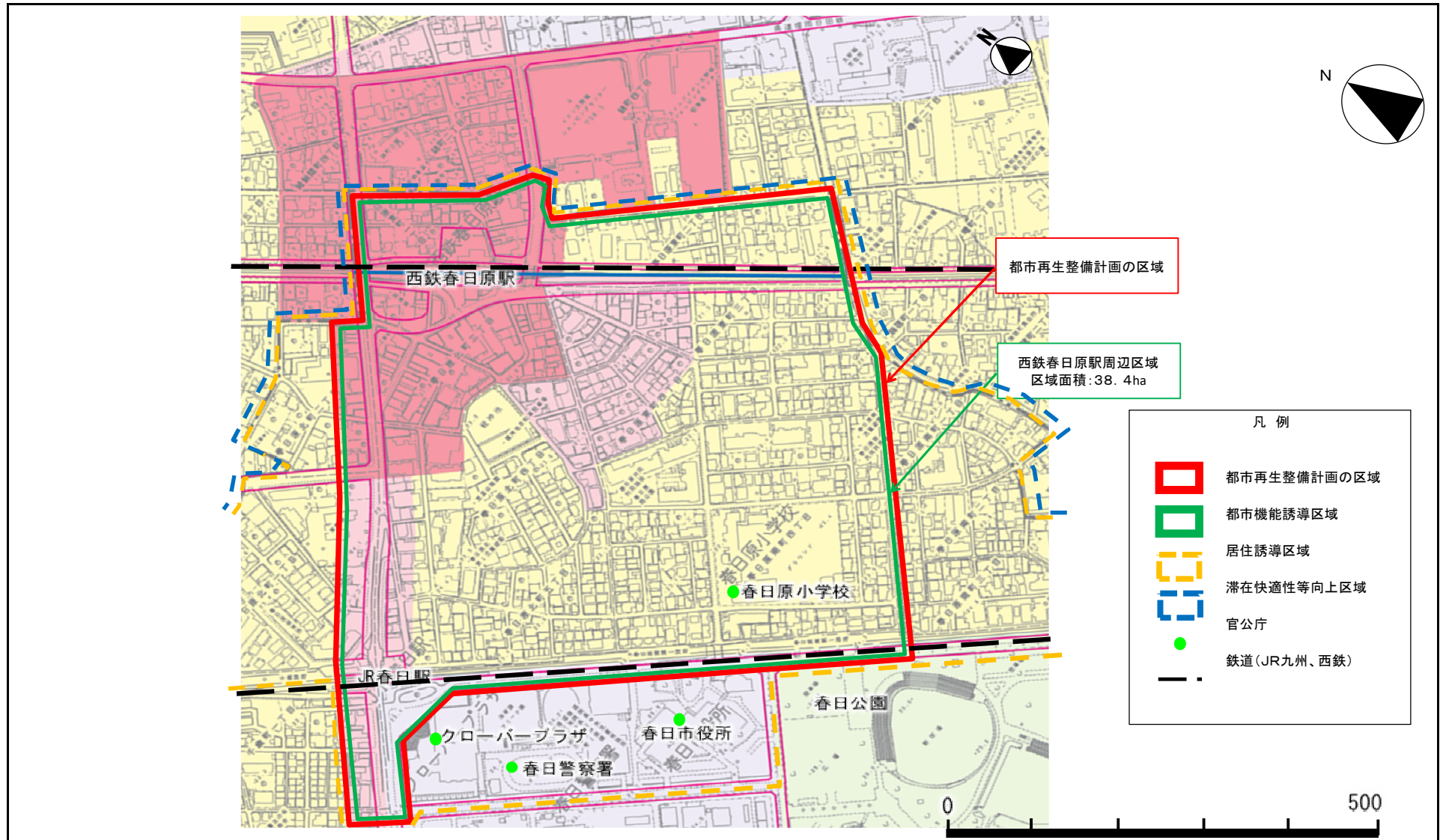
...B

合計(A+B)	810
---------	-----

[illegible]

西鉄春日原駅周辺地区(福岡県春日市)

面積	38.4(38.4) ha	区域	春日市春日原東町1～3丁目、春日原北町1～2丁目の各一部、春日原北町3～5丁目、春日原南町4丁目、原町3丁目の一部
----	---------------	----	---



西鉄春日原駅周辺地区(福岡県春日市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標：市の中心拠点にふさわしい都市基盤施設の充実と魅力的な歩行者空間の形成を図り、歩きたくなるまちなかを創出する。	代表的な指標	駅周辺地区における地元団体のイベント開催数	(回)	2	(R4年度)	→	4	(R8年度)
	目標1：駅周辺の歩行者空間を整備し、快適で安全な歩行者ネットワークを形成する。		駅周辺の歩行者空間の満足度	(%)	49.90	(R4年度)	→	52.00	(R8年度)
	目標2：駅周辺の道路空間をにぎわいの創出に活用できるよう改良を行い、市の中心拠点として相応しいエリアとしての価値を向上させる。		駅周辺の商店街を通行する歩行者数	(人)	3,270	(R4年度)	→	3,600	(R8年度)

